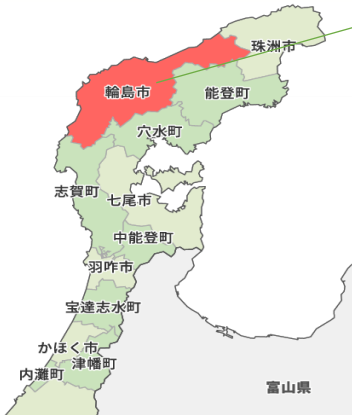


# 令和6年 能登半島地震 災害ボランティアセンター職員派遣報告 《8/19(月)～8/23(金) 輪島市》

## 【派遣先概要】



|      |   |
|------|---|
| 特徴   | 金沢市から車で約75分<br>豊かな緑と海に囲まれた漆器業(輪島塗)が盛んなまち          |
| 面積   | 426.32km <sup>2</sup> (蓮田市:27.28km <sup>2</sup> ) |
| 人口   | 21,441人 (蓮田市:61,186人)                             |
| 高齢化率 | 48.93% (蓮田市:32.0%)                                |
| 人的被害 | 重軽傷者516人、行方不明者3人、死者150人                           |

※令和6年8月1日現在

### <まちの様子>

輪島市では、建物倒壊や道路の地割れや隆起が甚大で、8月中旬でも災害発生当初の状況がそのまま残っているところがあります。

建物は1万棟余りが倒壊し、家屋の解体作業や交通網の整備を進めていましたが、充分ではないように見受けられます。

また、輪島朝市通りでは大規模火災により東京ドームに匹敵する面積を焼失する被害もありました。観光名所だった輪島朝市通りを見ると、営業している店舗は1店舗しか確認できませんでした。

週末にはお祭りが開催され、神輿が練り歩き、子どもたちの笑顔が見られるなど少しずつですが活気が戻ってきています。

### <派遣業務内容>

輪島市災害たすけあいセンター運営支援

- ・全国からのボランティアの受け入れ
- ・依頼ニーズとボランティアの調整
- ・活動先への送迎や送り出し
- ・資機材管理など(一日平均7件の活動に対応)

～派遣期間中のボランティア活動人数は228人(一日平均45.6人)～

### <派遣を終えて>

甚大な被害状況は想像を超えていましたが、地域住民の前向きな気持ちや全国的な支援もあり、復旧復興に向けて一步一步前進しているようでした。

また、日頃より住民同士の関わりを持つことで、自然な見守りや助け合い、心理的な安心感が生まれ、有事に強いコミュニティの必要性も感じました。

業務の中では、依頼主と学生ボランティアとの間で、「ありがとう。みんなの笑顔に救われた。」「こちらこそ。今度は観光で来ます。その時までお元気で。」との会話があり、活動を通じた支えあいの大切さを感じる瞬間もありました。

まだまだ復旧復興には多大なる時間が必要です。どんな支援にも限りはありますが、多発する自然災害に対し、わがこととして捉え、絶えずアンテナを張り、できることを考えていくことが必要だと思いました。



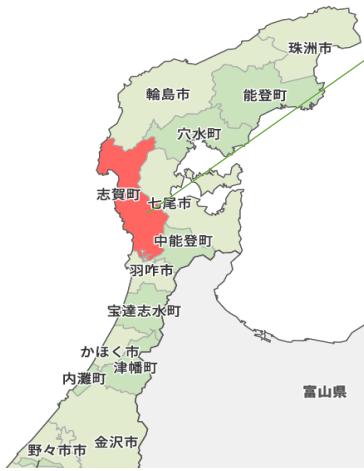
▲ボランティア屋外待合所



▲ボランティア受付の様子

# 令和6年 能登半島地震 災害ボランティアセンター職員派遣報告 《 4/21(日)～4/25(木) 志賀町 》

## 【派遣先概要】



|      |   |
|------|---|
| 特徴   | 金沢市から車で約50分<br>県内で唯一の原子力発電所があり、海と山に<br>囲まれた自然が豊かなまち |
| 面積   | 246.76km <sup>2</sup> (蓮田市:27.28km <sup>2</sup> )   |
| 人口   | 17,982人 (蓮田市:61,252人)                               |
| 高齢化率 | 46.3% (蓮田市32.0%)                                    |
| 人的被害 | 重軽傷者104人、死者2人                                       |



※令和6年4月1日現在

### <まちの様子>

志賀町では震度7の非常に激しい揺れが観測され、6,100棟余りの建物が倒壊したほか津波が観測されました。

また、町内至るところの道路や水道の施設管路などの被害も多く、約2か月もの中断水していました。

### <派遣業務内容>

志賀町災害ボランティアセンター運営支援

- ・ボランティアの支援を希望する町民からの依頼を受け、詳細を把握するため活動場所(自宅等)を訪問
- ・希望する活動の内容、被災状況、希望日、駐車場、トイレの有無を確認
- ・活動するボランティアが作業内容や現地の状景がイメージしやすいように写真を撮影
- ・一般のボランティアまたは技術系ボランティアへの振り分け及び書類の作成

### <派遣を終えて>

現地入りしてから目に飛び込んできたのは大きく隆起した道路と、ブルーシートで覆われた家屋が点在する情景でした。町民からは家財の搬出や瓦礫や灯籠の撤去希望が多くあり、ボランティアは全国各地から参加がありましたが、交通アクセス面や宿泊先の事情から、活動できる人数は1日平均50人程でした。

業務を通じて、支援希望のある家屋であっても、余震が続く倒壊する恐れがあるためにボランティアを派遣できないといったジレンマもありました。町民からは「遠いところから来てくれてありがとう。もっと大変な人もいるのに…申し訳ない。」と話すかたや、住民同士のつながりを感じながらも対話を求めているかた、長期間の避難生活に大きなストレスを感じているかたもあり、心身のケアも必要だと感じました。



▲ボランティア屋内待合所



▲ボランティアから志賀町へ  
たくさんの応援メッセージ